



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 坂野慎治  
 題字 島崎洋路

集中コース秋の部開催報告

『チェーンソーから』

例年よりも暖かな秋の十一月初旬に、三日間の集中コース秋の部。今回は、関東地方と中部地方から総勢十名の方々が参加してくれました。いきなりのチェーンソーを使った輪切り・玉切りに始ま



まず、輪切りから始める

り、プロットを設置しての太さと高さの測樹。林分形状比や地位指数・施業計画。樹の傾健康診断・樹の傾きと枝張りを見て立ち位置を決め、受け口・追い口・つるの伐倒。枝を払って玉切りし

たら、ウインチで寄せて集めて簡単集材。…と、三日間はあつという間でしたが、この一連の流れのなかでポイントを掴んでいただけたでしょうか。森林塾は「何か」を提供できたでしょうか。皆様には「何か」を持ち帰って頂けたでしょうか。

今回の内容  
 集中コース 秋の部  
 11月2〜4日  
 (木)土



梢をさがして

忘れましたこと、解かなくなること、こんな山はどうしたらいいでしょうか

…など何でもお気軽にご連絡ください。皆さんとのお付き合いも一回では足りたくない。なので、これから何らかの形でお付き合いをさせて頂ければ幸いです。慣れない山作業、お疲れ様でした。



太さを測る・直径巻尺

9時 島崎先生の山小屋に集合。事務局の挨拶と日程説明。早川講師の林業や森林の現況についてや森林整備の必要性の講義。塾生の方々の自己紹介やオリエンテーション。  
 9時30分 身支度をして現場へ移動。早川講師から、チェーンソーの構造や始動方法、取扱時の注意事項の説明を受ける。その後、各班に分

10時40分 大野さんの班は、伐倒現場へ移動して、受け口伐りの練習。小泉さんの班は、橋渡し材の伐り方やバーのとどかない大径材の輪切りなどの玉切り練習を充分に。  
 12時5分 小屋へ戻って、昼食。  
 13時 森林調査についての早川講師の講義。その目的や測樹の方法、林分形状比や相対幹距比・地位指数といった指数について。白熱した質



角度を決めて、斜め伐り

14時  
疑応答の後、

調査現場のヒノキ林へ移動して測樹開始。10m x 10mのプロット調査。その中の全ての木の太さを直径巻尺で測り、樹高は選抜した数本についてワイゼ測高器で測定。林齢は、推定で50年。

15時30分

小屋へ戻って休憩をとった後、データ整理。ヘクタール当たり本数や上層樹高などを算出してから、現状の地位指数と相対幹距比、林分形状比を求める。地位

指数は樹種と林齢と上層樹高から。相対幹距比はヘクタール当たりの本数と上層樹高から。林分形状比は平均直径と平均樹高から。調査結果は、上層樹高21mと23m、ヘクタール当たり本数が1100本と1600本となり、どちらの班も著しく過密状態。大野班は練習問題もやってみました。

17時25分

初日の講座を終了し、交流会準備。

18時15分

交流会開始。バーベキュー



引っ張ってください~い!

に、早川講師お手製のきのこ汁。そして、ビールと日本酒。陽が落ちると寒いのでドラム缶で焚き火。焼きそばが登場する頃には...

3日(金)

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、早川講師から指標の説明や施業方針の策定について講義を受ける。

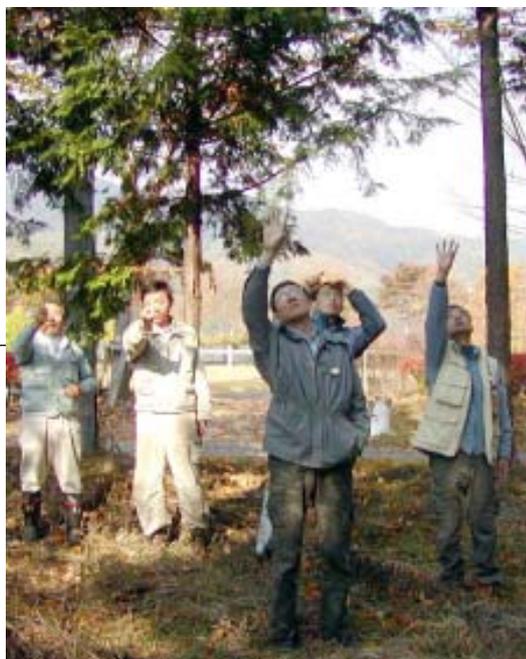
8時45分

各班にて施業方針の策定。

小泉班は、ヒノキを大きく育てる美林仕立てで、60年生時Sr20。大野班は、将来的に広葉樹中心の森林に人工遷移させるため、ヒノキの保残木は一本だけとし、今回はその生長を阻害するような木を伐り、10年後に再度整備することとしました。どちらの班も林分がまずみヶ丘の一角にあることを考慮して将来を考えてみたけれど、全く違った計画になりました。

9時50分

予定の時間より早く計画が出来たので、大野班はロー



高さを目視してみれば

プのアイ加工、小泉班は小屋隣のヒノキ林で樹高を目視してみました。

10時20分

早川講師の講評のあと、調査現場へ移動して保残木のマーキング。

11時35分

小屋へ戻り、早めの昼食。お昼休みは、やっぱりぶり縄?

13時

伐倒現場へ移動後、機材を準備して、いよいよ伐倒開始。幹の傾きや枝張り、隣り合う木の状態から伐倒方向を見定め、立ち位置を決め、チョークで受け口・追い口の設計図を書く。退避路を確保したら、チェーンソーを水平に保ち、フルスロットルで...

16時

小屋へ戻り、チェーンソー

4日(土)

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、さっそく伐倒現場へ向かう。

9時

現場着後、機材を準備して体操。各班毎に伐倒開始。伐倒方向・退避路・立ち位置・伐り終わり・水平・受け口・追い口...。枝

払い、幹をえくるような気持ちで。玉切りは、材の動きを注視しながら。

11時50分

午後からの集材にそなえ、ひっぱりだこを設置して、現場にて昼食。

12時5分

移動式炭化炉を使って、できればドラム缶でも炭焼きを試みます。材の仕込み、火入れの後は火の番です。その間は、学習会と少し早い忘年会。可能な方は、小屋宿泊で火の番のお付き合いを。

13時

集材開始 トビを手に、赤い帽子に丸太を入れて、寄せて、集めて簡単集材。滑車と組み合わせれば、保残木を回り込むことも、横になつている丸太も集められる。ただし、機械・滑車・材の内角から退避して集材を。

14時

チルホールを使った牽引伐倒をやってみました。かかり木になつてもなんのその、手動とはいえ、力持ち。

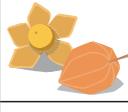
14時40分

作業を終了し、小屋へ戻る。

15時

講師総括の後、終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/荒井さん、井上さん、小倉さん、加藤さん、清水さん、遠山さん、中島さん、松本さん、山崎さん、講師/早川講師、スタッフ/大野さん、小泉さん、坂野



次回以降の予定

第十三・十四回

12月1・2日(金・土)

炭焼き・復習

移動式炭化炉を使って、できればドラム缶でも炭焼きを試みます。材の仕込み、火入れの後は火の番です。その間は、学習会と少し早い忘年会。可能な方は、小屋宿泊で火の番のお付き合いを。

翌日は、炭出しの後、復習です。保科先生の山林見学・測量・伐木造材を行います。なお、炭出し時はマスク・タオルなどが必要です。希望者は炭をお持ち帰り頂けますので、米袋などをご持参ください。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

第十五回

3月10日(土)

きのこ菌打ち

早いもので平成十八年度の最終回になります。ナラなどの原木にシイタケやナメコを、種駒を打ち込む方法と菌を塗る方法で植菌してみます。島崎先生の小屋に8時30分集合です。ご希望の方は、ほだ木を持ち帰ることが出来ますので、大きめの袋や紐をご持参下さい。

この時期、積雪や凍結の可能性がありますが、自家用車でお越しの場合は、スタッフドレスタイヤやチェーンが必要になることがあります。道路状況等、事務局までお問い合わせ下さい。なお、募集案内の日程では金曜日となっておりますが、3月10日・土曜日の開催です。ここに訂正してお詫び申し上げます。

やま・もり 豆知識

紅葉・黄葉

交差点の信号は赤・青(緑?)・黄色ですが、秋の山の色もこれに似て(同じかな?)赤・緑・黄と鮮やかに彩られています。イチヨウやポプラ、コシアブラの透き通るような黄色、コナラやミズナラのやや褐色がかつた渋い黄色、イロハモミジ、ハウチワカエデの燃えるような赤、ガマズミやマユミの沈むような赤、それぞれに趣があつて、この時期に山に入る楽しみのひとつになっています。

ところで、なぜ葉っぱは落ちる前に赤になつたり黄色になつたりするのでしょうか。理由はよくわかっていないようですが、メカニズム



としては色素の入れ替わりがあるようです。春から夏、旺盛に光合成をおこなっている時、クロロフィル(葉緑素)の働きで葉は緑色に見えます。そして秋も深まりクロロフィルが分解されると、今まで隠れていた黄色の色素カロチノイドが目立つようになり、これが黄葉です。代表的なイチヨウをはじめ、カツラやカラマツ、トチノキ、ブナ、イタヤカエデ、シラカバなどで

さて、では赤になるのはどんな色素でしょう。葉で生成された糖分は、落葉の準備のために葉の付け根に形成された離層に阻まれ、枝まで降りられなくなり、この糖分がアントシアニンという色素に変化し赤くなるのだそうです。この色素を生成する遺伝子をもたない樹木は黄色のまま落葉することになります。サクラやカキは赤や黄色が入り混じり、日が経つにつれて色も変化し、また違った美しさがあります。

鮮やかな紅葉(黄葉)になります。

るためには気温、光、湿度の条件があります。日中は好天で気温は二十度以上まで上がり、夜は五・六度まで冷え込み、そして適度な湿度があることです。ですから、渓谷沿いの日当たりの良い南向きの斜面などが、美しい紅葉を見るポイントになります。今年の秋は暖かい日が続いていましたが、ここに来て冷え込むようになり、霜さえ降りなければ、美しい紅葉が期待できる年だと思えます。

リレー通信

こと想うして 豊彦 石垣



私は、本年末で七十五歳になりますが、振り返ってみますと、中学二年生の夏に住んでいた仙台市が米軍の空爆を受けた際、父が出張で不在であったこともあり防空壕からの脱出が遅れ、文字通り紅蓮

の炎が天を焦す中を母と姉弟とで脱出し九死に一生を得たことが、私の人生スタート時の原体験になっています。それから一ヶ月もたないうちに終戦を迎え、疎開先から家族と離れ、学業を続けるため仙台市に戻り下宿生活を始めました。当時、都市部は極端な食糧難の時代で栄養失調症になり、銭湯から戻ると下宿の二階への階段を這いつくばつて昇らねばならぬ程衰弱してしまいました。時折、疎開先の親元に帰つて腹一杯食事をする体が受けつけず下痢をしてしまいます。そして、食料を持ち帰るとあらかじめ下宿の家主の家族の口に入つてしまつたという状況が続きました。中学生の身ではまともな抗議も出来ず、今から考えますと、あの様な環境で学業を続けられたことが不思議に思える程です。軍国教育から空爆被災の経験、そして敗戦、家族との別居生活などの短期間での環境の激変に耐えられたのは、異常なまでの心理的なテンションの状態にあつたからかも知れません。大学進学で、今度は東京での下宿生活を始めましたが、食糧事情は改善されたとはいえず、現在の飽食の時代とは比べものにならない程悪く、学生時代の思い出といえど、何時も空腹だった事が最初に出てきます。その様なこと



なったことから、図らずもその亭主というところで山林所有者となりました。入社十一年目に漸く係長に昇進し管理職としてのスタートが始まり、事業部の機構改革メンバーに任命されましたが、総論賛成各論反対で

から私も戦争被害者の末席に連なっていると思いますが、国民の大多数に私の苦しみとは比べものならぬ多大の犠牲を強いた一国の元首が、責任をとることもなく謝罪の言葉もないことに深い疑念を持つ少数派の一人です。そして、現在の政官財の汚職の横行、老若男女を問わぬ凶悪犯罪の増加、親殺し子殺しの日常茶飯事化等々の社会現象の根源は、こんなところにあるのではないかと考える、これ又少数派の一人です。

そんなこともあり就職してから、出世の妨げになると入社同期が敬遠する組合活動に参加し、支部長を務めたりしましたが、その当時の労使交渉で知己を得た会社役員から現在の家内を紹介され、彼女が分割相続で零細山主に

現状維持と、保身に汲々とする上層部の体質に嫌気がさし、大学時代の先輩友人のアドバイスもあり二年間の休職許可をとり、米国中西部の州立大学のビジネススクールに入学し、文字通り三十代後半からの英語の手習いで悪戦苦闘しましたが、MBAを取得して帰国しました。その後、米国東海岸のエスタブリッシュメントで、某化学会社との樹脂原料の日本における製造販売の合併会社の仕事を担当し、十数年を経て黒字化が

定着したところで、今度は、西海岸シリコンバレーのベンチャー企業との真空蒸着法（スパッタリング）による薄膜磁気ディスクの製造販売の合併会社の担当になりました。当時の日本では、塗布型薄膜磁気ディスクが主流で、

これを置き換えることが事業目的であったのですが、この時期、同法での有力メーカーであるKOAさんの存在を知るに至り調査も致しました。定年を一九九九年の春に迎え、神奈川県で森林ボランティア活動に参加してみましたが、物足りないものを感じておりましたところ、偶然インターネットでKOA森林塾の存在を知りました。私にKOAさんについての事前の知識がなければ見過ごしたかも知れませんが、その時私の頭に浮かんだのは、あのKOAさんが何故という疑問と、あのKOAさんのやっておられることならという期待感でした。振り返ってみると、就職して先ず組合活動から始めたこと、そして入社十二年目に会社側からの強い反対を押し切って米国留学をしたという自らの意志決定が、KOA森林塾に辿り着く道標であったと思わざるを得ません。この先は更に、どこに辿り着くのか見当もつきませんが、このご縁を大切に歩み続けたいと思っております。

さて、古い短い私にも夢があります。それはあの「願はくは花の下にて春死なむ」と詠った漂泊の詩人、西行のよつな死を迎えたいということです。彼は文字通り「その如月の望月のころ」に世を去ったのですが、それは決して

偶発的なことではなく、自ら食を絶ち自らの美意識に殉じたのです。その西行が七十歳を過ぎて二度目の奥州勧進の旅に出て、途中の難所である小夜の中山峠を越えたときの感慨を「年たけて また越ゆべしと思ひきや 命なりけり 小夜の中山」と詠っておりますが、当時としては異例の生命力の持ち主であったればこそ、あのような死を迎えられたのでしょう。私にとつて本塾での研習は、將に小夜の中山峠越えなのです。そして、いのちなりけりと帰路についております。

最後に林業についての私見を申しますと、今後の少子高齢化の進行に伴い貯蓄率が低下し、経常収支は赤字化し、円安が進行すると、数少ない豊富な国内資源である山林は必ず見直されてくるのではないのでしょうか。その果実を私が見ることがまず不可能だとは思いますが、山造りの技術

を次世代の身内の者にしっかりと伝承することが、この国に生まれた者の義務ではないかと思っております。何卒今後とも未長くご指導下さるようお願い申し上げますと同時に、受講生の皆様の益々の御発展を切に祈願致します。

またマツタケの話で申し訳ないのですが、管理している山の総括です。今年は結局シロの増加はなく、現状維持でした。この一つのシロから、十四本のマツタケが出て、そのうち十二本を出荷しました。今回は、他より遅く出て、しかも少しづつ出てくれましたので、平均して良い単価で売ることができました。全体で一六二五グラム、価格は三万八千円程。1kg当たりの単価は、約二万三千元。一つのシロとしては結構出たほうだと思えますので、収穫量を増やすには、あとはシロを増やすことです。

コラム

それから、売り上げに最も大きく影響するのが買取単価です。これはまわりの収量により、短期間でも結構上下動します。今年は、九月後半だと六万円/kgの値がついた時もあったようですが、十月十日前後は一気に採れ過ぎて、

一万円/kgを下回る程暴落したそうです。仮に六万円円で売ってきたとすると、同じ量で九万七千円にもなりますし、一万円だと一万六千円程度にしかなりません。気候や単価に影響されず安定したマツタケ山経営をするというのにはなかなか難しいのですが、少なくとも収量は増やす必要があります。その為にはシロを増やす必要があるのですが、その点楽しみは来年へ持ち越しとなりました。

おわりに

立冬を過ぎて、伊那谷ではそろそろきこも終わる頃となった今日この頃は、風の強い日が多くて、樹々の落葉が続いています。その風に舞う風景はもろろん、地上に降り積もった落ち葉が、朝夕の斜光で輝いているのを見ることが楽しみの一つになっています。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。 TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) URL http://www.koanet.co.jp

